

1回目穂肥は遅れずに施用し、収量確保！

【出穂期予想と穂肥時期のめやす】

- 分施肥系では、収量を確保するため、1回目の穂肥は幼穂形成期頃に遅れずに施用しましょう。

表1 幼穂形成期及び出穂期の予想 (長岡・平場地域 令和2年6月19日現在)

品種名	幼穂形成期	出穂期	施肥時期のめやす(月/日, ()は出穂前日数)	
			1回目	2回目
ゆきん子舞	7月1日	7月23日	6/28 ~ 6/30 (25 ~ 23)	7/9 (14)
つきあかり	6月30日	7月22日	6/27 ~ 6/29 (25 ~ 23)	7/8 (14)
あきだわら	7月19日	8月11日	7/17 ~ 7/19 (25 ~ 23)	7/28 (14)
ゆきみのり	6月28日	7月20日	6/27 ~ 6/29 (23 ~ 21)	7/6 (14)
(参考)コシヒカリ	7月10日	8月2日	7/15 ~ 7/18 (18 ~ 15)	7/23 (10)

注) 適用移植期(稚苗) : 早生品種5月1~5日、中晩生品種5月10~15日

【穂肥施用時の葉色と穂肥施用量】

- 収量・品質を確保するために、適正な施肥により葉色を維持しましょう。

表2 葉色めやすと施用量

品種名	葉色のめやす (SPAD)		施用量 (Nkg/10 a)			出穂期まで保つ葉色
	1回目	2回目	1回目	2回目	合計	
ゆきん子舞	37~39	36~38	3~4	2~3	6	36以上
つきあかり	41~46	42~46	3~4	2~3	6	40以上
あきだわら	38~40	38~40	3~4	2~3	6	37以上
ゆきみのり	38~41	40~43	4	2	6	-

- 出穂期まで葉色を保つため、穂肥施用前の葉色が薄い場合は、早めに施用しましょう。その場合は、3回に分けて施用することも検討しましょう。

【施用例】 1回目：2kg/10a、2回目：2kg/10a、3回目：2kg/10a

- 全量基肥(基肥一発)肥料でも葉色の低下が見られる場合は、窒素成分で2~3kg/10aをめやすに追肥を施用しましょう。

問い合わせ先
長岡農業普及指導センター
 電話 0258-38-2554
 E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp